

私も若槻の住民です



若槻地区の皆さん、
スケルトンの越 和宏です。

生まれが木曾の王滝村、高校生までそこで過ごしました。子どもの頃、何とか「有名人」になりたくて、それにはスポーツ選手になるのが手っ取り早いと考えました。

冬季競技に力を入れていた仙台大学体育学部に入り、マイナー競技のボブスレーを選びました。これも「有名人」になるための手段でした。

「有名人」に憧れて

大学の部生活は練習が厳しく「しごき」もきつい。そんなこんなで嫌気をさし1ヵ月足らずで「昔傷めたキズの後遺症が出た」と、監督に申し出て退部しました。“後遺症”は私の作文で、ウソをついたわけです。退部してみたものの、ウソをいった後ろめたさに苦しみました。3年半のち監督に謝り、再度入部を許してもらいました。

社会人になって長野市に住んでもう二十数年になります。その頃、ボブスレーからスケルトンに競技を変えました。スケルトンはまだ、未知の競技。もちろん指導者はおらず、外国遠征中に他の国の選手やコーチに教えてもらう状態でした。パイオニアの苦労を味わいました。しかし、この道を選んだのも「早く世界のナンバーワンになるため」でした。



スケルトンに懸ける

長野で最初の就職は市役所の臨時職員でした。長野冬季五輪に関係した仕事に就けるかと期待していましたが、まったく関係ない部署でがっかり。住んだ場所は新田町、吉田2丁目、稲田ですが、浅川の競技場(スパイラル)を中心に、通いやすい場所に住みました。稲田の住民になってもう17年です。

最初、若槻の人は「冷たい」と感じました。他人(外部から来た人)への思いやりのないのかなあーと思いましたが、長く住むうちに、私たち家族が内側の人間になり、皆さんから大変良くしていただいています。

私はバンクーバー五輪の後、第一級の競技会に出るのは限界に来ていると言いました。日本で初めてのスケルトン選手であり、今後は少しでも底辺を広げて組織づくりするのが自分の責務と考えています。

元気なまちづくりを

子どもたちにも教えたいと思います。若槻はスパイラルに近く恵まれた環境です。地域でまともであれば、私が直接教えることが出来ます。競技もですが、子どもたちに地域のために何が出来るかを考えさせ、実践させることも大切。私は自分の子どもの仲間を集め、スパイラルまでの8.5キロのゴミ拾いを、定期的に行っています。

みんなで地域が元気になることを考えましょう。素晴らしい景色のスパイラルで「そうめん流し」ならぬ「そば流し」など、お祭り企画を考えるのも楽しいじゃないですか。

(構成 広報委員長)

《越選手とスケルトン》こし かずひろ 45歳。スケルトンはそり競技の一つで02年からオリンピック種目に復活。ソルトレイク(8位)、トリノ(11位)、バンクーバー(20位)に出場。W杯優勝2回。全日本選手権は4連覇を挟み7勝。07年他の2選手とともにチーム・スケルトンクラブを設立した。システックス所属。